

キ タ テ ハ

Polygonia c-aureum

種名



分類	タテハチョウ科												
形態	前翅長 22～34mm。季節型があり、夏型は地色が黄褐色、翅の外縁の切れ込みが少ない。秋型は赤橙色で、切れ込みが大きい。はより大きく、翅型が横長になる。次種によく似るが、本種は翅表の中室の基部に黒斑をもち、後翅外縁の突出部の先がとがる。												
分布	北海道(中～南部、奥尻島を含む)、本州、四国、九州(対馬・壱岐・五島列島を含む)。南西諸島(種子島～八重山諸島)でも記録があるが、種子島以外では迷蝶とみなされる。八重山諸島(西表島、石垣島、竹富島)では秋に記録が多い。												
出現期	暖地では年4～5回の発生、第1回目の夏型は5月中～下旬に羽化する。秋型は9月中旬以降に見られ、成虫で冬を越す。冬でも暖かい日には飛ぶことがある。寒冷地では年2～3回の発生。												
生態	河原、荒地など開けた場所に棲む。市街地も見られ、食草がおもに帰化植物に限られるため、大陸から食草とともに移入されたものか、飛来して分布を拡げたとする意見がある。地表低くを活発に飛び回り、クヌギの樹液を吸ったり、動物の排泄物などで吸汁する。地上で吸水することもある。ヒメジョオン、タンポポ類、セイタカアワダチソウなどで吸蜜する。												
食樹	クワ科のカナムグラが主。カナハラソウと栽培主ポップ、アサなども食べる。												
幼虫 (幼生期)	体長 35mm。食草の葉を一部をかじり、糸を吐いて巣をつくる。頭部に短い一対の突起、胴部は黒褐色、黄褐色の棘をたくさんもつ。												
出現時期	(月)	-	-	-	-	5	6	7	8	9	-	-	-
その他													
参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ													